



チャレンジ！発見！

学校教育目標

「豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学び考え、よりよい生活を創り出す子ども」の育成

社会に開かれた教育課程

学校経営の基盤

- (1) ポスト・コロナにおける新しい学校生活様式をふまえて
変化する状況に柔軟に対応しながら、安心・安全な学校教育を推進する。
- (2) 時代の要請に応える、新しい学校教育の創造を
「Society5.0」「超スマート社会」AIをあらゆる場面で活用する社会
全ての教職員が一つのチームとして結束・協力を。
前例にとらわれず、今こそ新しい価値を生み出す。

【目指す子ども像】

「チャレンジ意欲を持ち、創造性を発揮する子ども」

- 真心と思いやりがあり、自他のよさを自覚する子ども（徳育）
- 体を鍛え、粘り強くやりぬく子ども（体育）
- 学ぶ価値を自覚し、自ら学び考え、発信する子ども（知育）

【目指す教職員像】

- 責任・協力のもと、信頼される創造的な教職員
- ・互いに研鑽し合い、自らの資質・能力を高める
- ・高い専門性と熱い使命感・情熱をもつ
- ・高い危機管理意識を持ち、安全な学校をつくる
- ・広い視野で見通しをもち子どもの未来をつくる

〈Yugawa〉4つのこだわり（挨拶・時間・掃除・靴箱の整理）

学校教育目標達成のためのキーワード「チャレンジ!発見!」

- ・失敗を恐れることなく様々なチャレンジが生まれる職員室 → そのような先生のもとで、子どもたちはチャレンジしようと一歩踏み出す。
- ・お互いのチャレンジに敬意を払い、ともに学び合うことのできる職員室 → そのような先生のもとで、互いに尊重し合う子どもが育つ。
- ・新しいこと（教育方法や考え方、子どもの見方）を発見する職員室 → そのような先生のもとで、子どもたちは新たな発見の意欲が生まれる。
- ・職員室（先生）も学校（子どもたち）もウェルビーイングにつながる教育活動を。

令和5年度は、「（子どもが自分で）創る」場を設定すること

- ・選択、自己決定の場がある授業
- ・自ら価値を見つけ、それを追究し、自ら考え、判断し表現する授業
- ・話し合いや交流の前に、まず、自分の考え方、感じ方をもって臨んでいる授業
- ・委員会活動、係活動など特別活動は子どもが育つチャンス「決める」場の設定を。

【一人一人が生き生きと輝く学校】

「1時間の授業に全てがある」「教師の授業力=学校力」

「豊かな教職員ライフの実現のための授業力向上」

- 学習規律の徹底
 - ・チャイムで始め、チャイムで終わる。
 - ・最後まで相手（先生や友達）の話を聞く。
 - ・正しい言葉遣いで教師も子どもも話す。（呼び捨て×呼称は「さん」）

● 学力向上・体力向上

- ・スクールプラン・湯川小スタンダードの共有・プログラミング教育推進
- ・GIGA 端末を活用した個別最適化・協働的な学びの推進
- ・体育科学習を要とする運動好きな子ども、運動習慣がある子どもの育成
- ・4年生以上のもちあい授業・教科担任制の推進
 - ・導入 → めあての設定 → 活動 → ねらい → 振り返り
 - ・教師の問い返し、協働学びでの問いを精選し、一人一人が考える授（対話的で、深い学び）「授業5つのポイント」を日常化した授業づくり
 - ・教師が語らず、子どもが説明する授業へ（GIGA 端末で深い学び）

● 特別支援教育の充実

- ・すべての子どもに関わるという視点をもって教育する。
- ・インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの具体を追究する。
- ・保護者、児童に対して「特別支援教育」の理解を深める手立て
- ・特別支援学級「たんぽぽ」学級との交流
- ・合理的配慮についての校内検討

☆前例にとらわれない。新しいアイデアの積極的な導入

【自己肯定感を高める温かい学校】

- 自己指導能力を育成する積極的な生徒指導（機先を制する）
 - ・「スピードは誠意である」報告・連絡・相談は確実に（事後報告も）
即日対応、家庭訪問。（連絡帳より電話、電話より家庭訪問）
 - ・問題事象には理由がある。問題の背景に寄り添う姿勢を忘れない。
 - ・いじめは、どの子どもにもどの学校にも起こり得る。子どもの発するサインを逃さない。登校しぶりの段階での適切な対応。不登校・長期欠席対応

● 人間としてよりよく生きようとする心の育成（道徳教育）

- ・湯川小の子どもとして、誇りをもって生きる。
- ・シビックプライドを醸成する。（北九州市のよさ、湯川小のよさ）
- ・「特別の教科 道徳」を指導の要として、特別活動等に生かす。
- ・自尊感情を高めるには、高学年を中心に人の役に立つ経験を積ませる。

● 人権感覚を育む人権教育の推進

- ・体罰の禁止・言葉の暴力、連帯責任の禁止
- ・温かい言葉を教師も心がけ、子どもたちの言葉を価値付ける。
- ・新版「いのち」「北九州市子どもつながりプログラム」の計画的な実施

● 規範意識の徹底

- ・あいさつ「おはようございます、こんにちは」地域にも
- ・黙々掃除 どこを、どのようにするのか手順と方法を明確に
- ・揃える 名札、靴、かさ、雑巾、体操服、手、足、心
- ・時間を守る 待たない・途中で終わる
- ・通行ルール はさみ歩き（はしらず・さわがず・みぎがわ）

【チームワーク・ネットワーク・フットワークに長けた学校】

- 活力溢れる教職員集団の育成
 - ・業務改善ルールブックを基にした、業務の見える化、情報の共有化
※子どもと遊んだり話したりすること、教材研究は怠らない
 - ・定時退校日 家庭・家族を大切に ON/OFF切替
 - ・綱紀粛正（飲酒運転撲滅、個人情報保護、体罰・ハラスメント禁止）
 - ・管理職や主任、同僚と情報共有、連携（行事等の事前連絡）

● 保護者との連携強化

- ・出会った保護者によりよいことを常に発信する。
- ・通信、HP、一斉メール等で学校、学級の様子を知らせる。
学級、学年通信等対外文書は必ずチェックを受ける。
- ・学習参観、懇談時は元気で明るい姿を見せよう（服装は重要）
- ・保護者も子育てで悩んでいる。寄り添って、ともに育てる姿勢で。

● 地域との連携

- ・コミュニティスクールとしての地域の中での役割
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・地域行事への関心を高める。

● 園・中学校との連携

- ・保幼小中連携事業：葛原小、沼小、湯川中、沼中、幼稚園等との連携

● 各自の役割を生かした組織的な学校経営

- ・全ての子どもたちを全ての教職員で育てる。教師を一人にしない。

● 健康・保健・安全教育

- ・8:35 までに健康観察、8:40 までに居場所確認
- ・けがは、当日保護者へ連絡（連絡帳は×）
- ・病院受診したけがは、再発防止のため、必ず終礼で報告
- ・不登校、無断欠席、2日欠席は担任家庭訪問。

● 防災教育

- ・毎月の安全点検の確実な実施
- ・下校時刻の厳守。学年で揃える。
- ・けがを防止する校内環境、生活指導
- ・校外学習の事前届け（安全面の徹底）

● 食育の推進

- ・給食を生かした食育指導
- ・給食時間を守り、昼休みを確保
- ・アレルギー対応給食のマニュアル化
- ※おかわり禁止、お土産禁止、担任引率

● プログラミング教育

- ・湯川小プランを基に、年間10時間指導
- 伸ばしたい資質・能力を明確に

● SDGsを目指した、教科横断的な視点をもった教育

- ・未来を切り拓くための資質・能力を身に付ける。